

Cisco Tiger Prism ソリューション

最終更新日: 2017 年 7 月 28 日

このデモンストレーションについて

このデモンストレーションでは、Tiger Prism ソリューションの機能を説明することができます。

- [要件](#)
- [このソリューションについて](#)
- [トポロジ](#)
- [セッション ユーザ](#)
- [はじめに](#)
- [シナリオ 1: Tiger Prism を使用した通話量のモニタリング](#)
- [シナリオ 2: 着信パフォーマンス ダッシュボード](#)
- [シナリオ 3: エンドポイント コストのモニタリング](#)
- [シナリオ 4: Cisco UCM コール分析](#)
- [シナリオ 5: 部門ごとのレポート](#)

要件

次の表に、事前に設定されたこのラボでの要件を示します。

表 1. 要件

必須	オプション
<ul style="list-style-type: none"> • Cisco AnyConnect 搭載のラップトップ 	<ul style="list-style-type: none"> • ルータ (Cisco dCloud 用に登録および設定済み) • 次の Cisco IP Phone シリーズ モデルの 1 つ: <ul style="list-style-type: none"> ◦ 794x、796x、または 78xx ◦ 88xx、89xx、または 99xx • Cisco SX、DX、EX TelePresence デバイス

このソリューションについて

Collaboration および Unified Communications はデジタル化への移行に欠かせないクライアント向けコンポーネントです。リアルタイムのイベントデータを把握し分析することで、より充実した快適なカスタマー エクスペリエンスおよびワークフォース エクスペリエンスの提供が実現します。

リアルタイムのデータ抽出が可能な Prism によって主要なインサイトが提供され、ビジネス上の意思決定が促進されます。また、効率の改善が実現し、コスト削減機会を特定できるようになります。Prism では、直感的なダッシュボード、カスタマイズ可能なレポート、使いやすい分析機能を使用して、技術者でなくともシンプルかつ効率的に通信インフラストラクチャを管理できます。所有するデバイスの数が 100 でも 10 万でも、Prism の非常に高い拡張性と高速性で世界中のさまざまな企業に最適なオプションを提供します。

Prism には次のような特長があります。

- コラボレーション サービス導入の測定
- 通信コストの管理
- 個人の生産性のモニタリング
- SIP トランク キャパシティの決定
- 分析を使用した意思決定の促進
- 不正やセキュリティ違反の検出

詳細については、Cisco Tiger Prism の[製品ページ](#) [英語] を参照してください。

トポロジ

このラボには、いくつかのエンタープライズ サーバ VM が含まれます。ほとんどのサーバは、管理者レベルのアカウントを使うことで自由に設定できます。管理者アカウントの詳細については、関連するスクリプトの手順およびサーバ詳細表で説明しています。

図 1. デモンストレーションのトポロジ概要

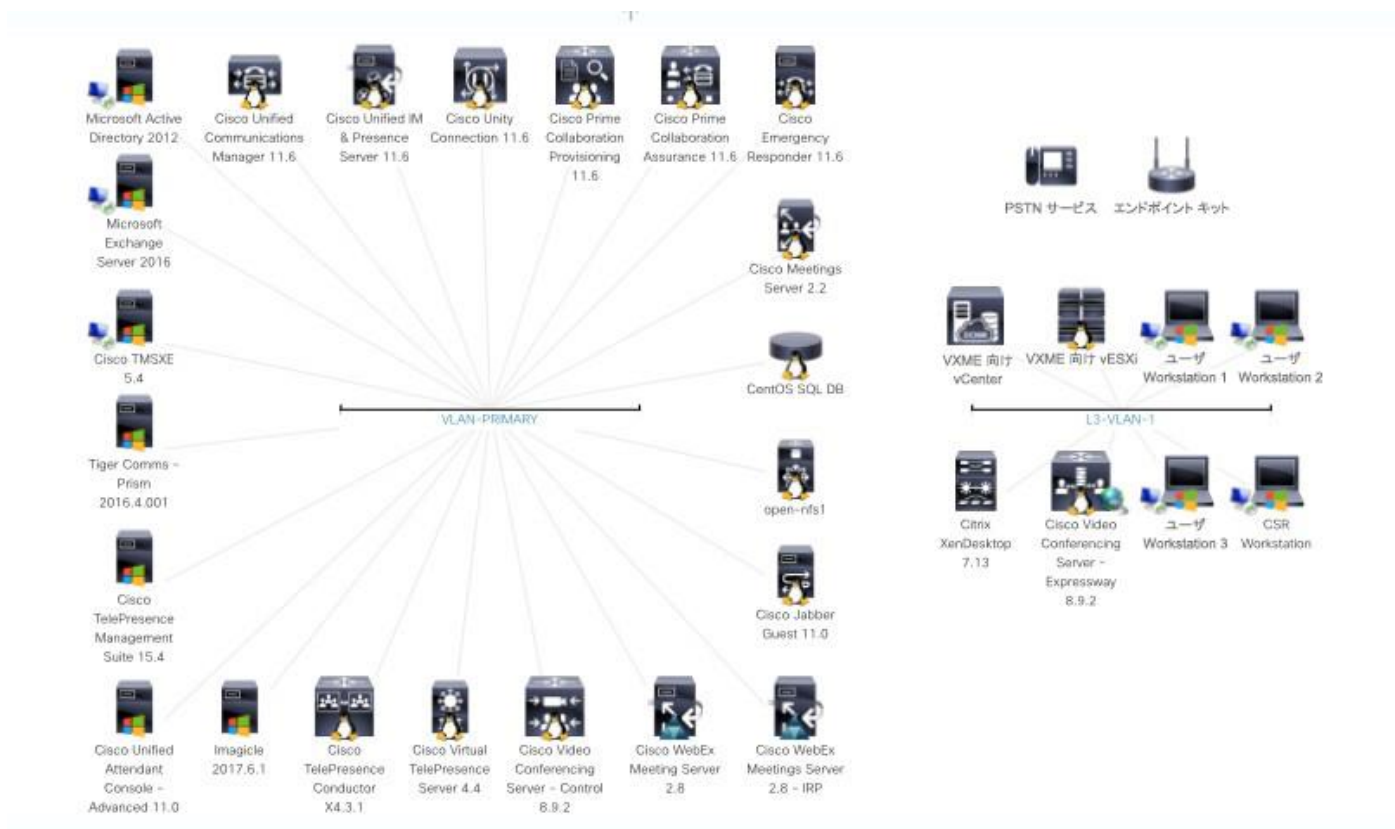


表 2. サーバ情報

アプリケーション	バージョン	URL	ユーザ名	パスワード
Microsoft Active Directory サーバ	2012 R2	198.18.133.1	administrator	C1sco12345
Microsoft Exchange Server	2012 R2 および Exchange 2016	198.18.135.52	administrator	C1sco12345
Cisco TelePresence Conductor サーバ	XC4.3.1	https://cond1.dcloud.cisco.com	admin	dCloud123!
Cisco TelePresence サーバ	4.4 (1.16)	https://vts1.dcloud.cisco.com	admin	dCloud123!
Cisco TelePresence Management Suite	15.4	https://tms1.dcloud.cisco.com	administrator	C1sco12345
Cisco TelePresence Management Suite Extension for Microsoft Exchange	5.4	198.18.135.36	DCLOUD\administrator	C1sco12345
Cisco Video Conferencing サーバ - Controller	X8.9.2	https://vcsc.dcloud.cisco.com	admin	dCloud123!
Cisco Video Conferencing サーバ - Expressway	X8.9.2	https://vcse.dcloud.cisco.com	admin	dCloud123!
Cisco Prime Collaboration - プロビジョニング	11.6	https://cpc1.dcloud.cisco.com	globaladmin	dCloud123!
Cisco Unified IM/Presence サーバ	11.5.1.12900-21	https://cup1.dcloud.cisco.com	administrator	dCloud123!
Cisco Unified Communications Manager	11.5.1.12900-21	https://cucm1.dcloud.cisco.com	administrator	dCloud123!
Cisco Emergency Responder	11.5.2.20000-6	https://cer1.dcloud.cisco.com	administrator	dCloud123!
Cisco Jabber Guest サーバ	11.0.0.37	https://jabberguest.dcloud.cisco.com	admin	dCloud123!
PostgreSQL Message Archiving サーバ	CentOS 7.1.1503	198.18.134.29	Root	dCloud123!
Cisco Meetings Server	2.2	https://198.18.134.175:445	admin	dCloud123!
Cisco Unified Attendant Console Standard	11.0.2	N/A (Wkst1 にローカルにインストール)	該当なし	該当なし
Cisco Unified Attendant Console Advanced	11.0.1.10-2	https://cuaca1.dcloud.cisco.com	ADMIN	dCloud123!
Cisco Prime Collaboration Assurance	11.6	https://cpa1.dcloud.cisco.com	globaladmin	dCloud123!
Cisco Unity Connection サーバ	11.5.1.12900-21	https://cuc1.dcloud.cisco.com	administrator	dCloud123!
Cisco WebEx Meetings Server	2.8.1.19.B-AU	https://meetingsadmin.dcloud.cisco.com	amckenzie@dcloud.cisco.com	C1sco12345!
UnifiedFX Migration FX サーバ	2.0.1.144	http://198.18.1.39:8181/AutomationFX/#/app/parameters	administrator	dCloud123!
Imagicle	Summer 2017 V1	http://198.18.135.54/fw/frame/login.asp	admin	dCloud123!
Citrix Zen Desktop	7.13	http://xendesktop.dcloud.cisco.com/citrix/storeweb/	DCLOUD\<username>	dCloud12345!
VMware ESXi (Workstation 1)	6.0.0	198.18.1.36	DCLOUD\amckenzie	dCloud12345!
Tiger Prism サーバ	2016.4.001.5033	https://tiger (Workstation 1 から)	DCLOUD\administrator	C1sco12345
Open Filer サーバ	ESA 2.99.1	198.18.135.39	openfiler	dCloud123!
Workstation 1	Windows 10 Pro	198.18.1.36	DCLOUD\amckenzie	dCloud12345!
Workstation 2	Windows 10 Pro	198.18.1.37	DCLOUD\aperez	dCloud12345!
Workstation 3	Windows 10 Pro	198.18.1.38	DCLOUD\mcheng	dCloud12345!
CSR Workstation	Windows 10 Pro	198.18.1.39	DCLOUD\chegarty	dCloud12345!

セッション ユーザ

表 3. セッション ユーザ情報

ユーザ名	ユーザ ID	パスワード	ロール	エンドポイント デバイス	電話	内線番号
Adam McKenzie	amckenzie	dCloud12345!	プロジェクト マネージャ	表 1 に記載されたエンドポイント デバイスのいずれか	+1 972 555 6016	6016

注: 表 1 に記載されているデバイスは、事前設定済みのシナリオに基づく推奨デバイスです。Cisco Unified Communications Manager にはセルフプロビジョニング機能が搭載されているため、利用可能であれば、任意のデバイスを任意のユーザに割り当てることができます。

はじめに

デモンストレーションの前に

Cisco dCloud では、実際の対象者の前でプレゼンテーションを行う前に、アクティブなセッションを使用して、このドキュメントのタスクを実施しておくことを強く推奨します。そうすることで、ドキュメントとコンテンツの構成に慣れることができます。

お客様向けプレゼンテーションを成功させるためには、入念な準備が不可欠です。

次の手順に従ってセッションをスケジュールし、環境を設定します。

1. dCloud セッションを開始します。[\[手順を見る\]](#)

注: セッションがアクティブになるまで最長で 45 分かかることがあります。

2. [表示 (View)] をクリックして、アクティブ セッションを開きます。
3. **ラップトップに Cisco AnyConnect** をインストールし、dCloud ユーザ インターフェイスで表示される AnyConnect クレデンシャルを使用して、アクセスします。[\[手順を見る\]](#)
4. ルータとラップトップを接続します。[\[手順を見る\]](#)
5. 最適なパフォーマンスを得るため、**Cisco AnyConnect VPN** [\[手順を見る\]](#) および**ラップトップのローカル RDP クライアント** [\[手順を見る\]](#) を使用してワークステーションに接続します。このデモンストレーション用に複数のラップトップ PC を使用する場合は、1 台ずつ各ワークステーションに接続します。
 - **ワークステーション 1** - IP アドレス: 198.18.1.36、ユーザ名: dcloud\amckenzie、パスワード: dCloud12345!
 - デモンストレーション ワークステーションに Cisco Jabber が自動ログインします。ログインしない場合は、デスクトップで当該のアイコンをダブルクリックしてログインします。
6. **オプション:** Cisco Unified Communications Manager に搭載されたセルフプロビジョニング機能を使用して、このデモンストレーションの電話をプロビジョニングします [\[手順を見る\]](#)。電話機のプロビジョニングには、表 2 の内線番号を使用します。
 - Adam McKenzie は、**内線 6016** で、表 1 にある任意のシスコ デバイスを使用できます。

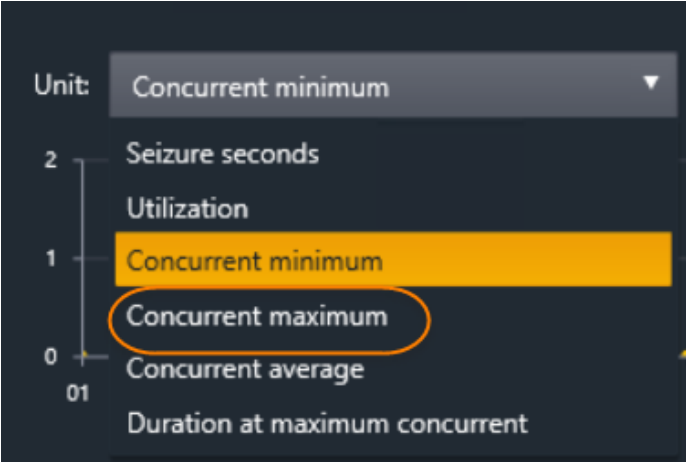
シナリオ 1: Tiger Prism を使用した通話量のモニタリング

[チャンネル グループの使用率 (Channel group utilization)] ダッシュボードを使用して、ISDN または SIP トランクの最大同時発生コール数を決定します。

デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは。私は Adam McKenzie です。私は ABC Company のエンジニアです。Cisco Unified Communications サーバ クラスターの維持と、会社のニーズに見合う通信帯域幅を確保する業務を担当しています。</p> <p>私は、自分のトランクがオーバーサブスクライブかアンダーサブスクライブかを判断する必要があります。自社の通信インフラストラクチャの高レベルのビューを獲得するため、Tiger Prism にログインします。</p>	<p>Workstation 1 で (Adam McKenzie として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> Cisco Jabber クライアントがログインされていることを確認します。IP フォンがある場合は、プロビジョニングされ、動作していることを確認します。 携帯電話を使用して、内線 (DN) 6016 に割り当てられた外線 (DID) 番号に電話をかけ、通話を終了します。このコールは Cisco dCloud セッション の [セッション詳細 (Session Details)] セクションに表示されます。システムがレコードを収集するのに最大 5 分かかることがあります。 Internet Explorer を開いて http://Tiger に移動します。これで、Tiger VM のコントロール パネルが開きます。  <ul style="list-style-type: none"> ポータルは Adam McKenzie として自動的にログインします。ページの右上隅に名前が表示されます。  <ul style="list-style-type: none"> [ダッシュボード (Dashboards)] タイルをクリックします。 

手順	説明の要点	操作																									
2	<h3>チャンネルグループグリッドの説明</h3> <p>最初に、チャンネルグループの使用率を確認します。これにより、グループごとに使用可能な同時発生コール数と、表示できる最大コール数がわかります。また、自社のネットワークのピーク時の使用率が、利用可能なリソースに基づいて定義された制限内にあるかどうかもわかります。</p>	<ul style="list-style-type: none">• [トラフィック(Traffic)] > [チャンネルグループの使用率(Channel group utilization)] をクリックします。• [使用可能なチャンネル(Available Channels)] 値には、そのチャンネルグループで利用できる最大同時コール数が反映されます。• [最大同時発生数(Concurrent Maximum)] は、選択した期間中にネットワークで実際に使用した値を示します。• [ピーク時使用率(Peak Utilization)] は、チャンネルグループが最大使用可能数にどのくらい到達しているかをビジュアルで表示します。• ビジュアルインジケータが赤色の場合は、リソースなしエラーやビジー音が発生しています。 <div><h4>Channel Group Utilization</h4><div>Channel groups 8 channel groups selected Select by Quick dates Dates This year ↻</div><table><thead><tr><th>Name</th><th>Description</th><th>Available channels</th><th>Concurrent maximum</th><th>Peak utilization</th></tr></thead><tbody><tr><td>002</td><td>dCloud_SIP_Trunk_UC</td><td>30</td><td>1</td><td>3 %</td></tr><tr><td>031</td><td>East Europe Gateway</td><td>30</td><td>6</td><td>20 %</td></tr><tr><td>032</td><td>West Europe Gateway</td><td>30</td><td>18</td><td>60 %</td></tr><tr><td>033</td><td>South America Gateway</td><td>30</td><td>12</td><td>40 %</td></tr></tbody></table></div> <ul style="list-style-type: none">• 任意の行をクリックして、その特定のグループの詳細を表示します。 <div><h4>Details for channel group: 031</h4><div>Incoming Outgoing Tandem - incoming Tandem - outgoing</div><div>Unit: Utilization</div></div>	Name	Description	Available channels	Concurrent maximum	Peak utilization	002	dCloud_SIP_Trunk_UC	30	1	3 %	031	East Europe Gateway	30	6	20 %	032	West Europe Gateway	30	18	60 %	033	South America Gateway	30	12	40 %
Name	Description	Available channels	Concurrent maximum	Peak utilization																							
002	dCloud_SIP_Trunk_UC	30	1	3 %																							
031	East Europe Gateway	30	6	20 %																							
032	West Europe Gateway	30	18	60 %																							
033	South America Gateway	30	12	40 %																							

手順	説明の要点	操作
3	<p>ユニットを変更してその他のデータ測定値を表示する</p> <p>私は最小同時発生数、最大同時発生数、平均同時発生数や、最大同時発生数が維持されている期間など、使用率に関するさまざまな測定値を確認することができます。</p> <p>発生した最大同時コール数を把握するため、測定単位として [最大同時発生数 (Concurrent maximum)] を選択します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ゲージ下のダッシュボード右側にある [単位 (Unit)] ドロップダウンメニューを、[最大同時発生数 (Concurrent maximum)] に変更します。これで発生したコール数が表示されます。 

手順	説明の要点	操作
4	<p>コール数が表示されたら、日時の単位を変更してこの値を長期間にわたって確認します。これにより、最大値や最小値が発生するタイミングについての観点を得ることができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードの右側下部でリストされた曜日の横にある [単位 (Unit)] ドロップダウン メニューを、[時間 (Hours)] から [曜日 (Week Days)] に変更します。これにより、他より使用率の高い曜日があるかを確認できます。また、この値を [月 (Months)] に変更できます。 
5	<p>ビューを [今月 (This month)] に変更して、過去の月中に生成されたアクティビティを表示します。これにより ABC Company の平均パフォーマンスが適正に表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードの上部にある [日付 (Dates)] ドロップダウン メニューを [今月 (This month)] に変更します。 

シナリオ 2: 着信パフォーマンス ダッシュボード

[着信パフォーマンス (Incoming calls)] ダッシュボードを使用して、コンタクト センターのレポートに含まれていない処理済みコールとユーザの KPI を取得します。

デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは、再び Adam McKenzie です。</p> <p>私は部門、ユーザ グループ、個人ごとに応答した通話量を把握する必要があります。この詳細により、1 つのグループが会社の他のグループよりも高い割合でリソースを使用していることがわかります。</p>	<p>Workstation 1 で (Adam McKenzie として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面右上の [モジュール (Modules)] ドロップダウン メニューをクリックして、[ダッシュボード (Dashboards)] タイルを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> [着信 (Incoming)] をクリックします。 [着信パフォーマンス (Incoming Performance)] をクリックします。 ダッシュボードに今週のデータが表示されます。

2

部門別のコールの総数、応答済みコール数、無応答コール、応答までの平均時間、コールの詳細を示す概要データを表示します。

操作

•

ダッシュボード左側の [パーティ(Parties)] データ グリッドに表示された異なるエントリをクリックして、統計情報を更新します。ビジュアル インジケータが赤色の場合は、リソースなしエラーやビジー音が発生しています。

Name	Current path	Calls	% answered
Engineering	dCloud/Engineering	263	<div><div></div></div> 100 %
Adam McKenzie	dCloud/Engineering/Ada...	0	<div><div></div></div> 0 %
HQ	dCloud/HQ	98	<div><div></div></div> 100 %
QA	dCloud/QA	178	<div><div></div></div> 87 %
RockCoast	dCloud/RockCoast	50	<div><div></div></div> 92 %
Sales	dCloud/Sales	480	<div><div></div></div> 99 %
TAC	dCloud/TAC	6	<div><div></div></div> 100 %

Calls for directory item: Engineering

Total calls

263

Answered calls

263

Average answer response time

2.0s

Unanswered calls

0

% unanswered

0%

Leg start (UTC-06:00)	Calling	Origin	Called	Destination	Ring time
20/11/2016 05:44:59	0771445****	Mobile Telefonica...	200	James Hunter	00:00:01
20/11/2016 20:28:59	0771445****	Mobile Telefonica...	200	James Hunter	00:00:01
20/11/2016 20:31:59	0771445****	Mobile Telefonica...	200	James Hunter	00:00:01
21/11/2016 08:16:53	0780247****	Mobile Telefonica...	215	Maria Freeman	00:00:00
21/11/2016 08:16:53	0780247****	Mobile Telefonica...	215	Maria Freeman	00:00:00
21/11/2016 08:59:59			200	James Hunter	00:00:01
21/11/2016 08:59:59			200	James Hunter	00:00:01
21/11/2016 09:17:59	0759972****	Mobile Telefonica...	200	James Hunter	00:00:01
21/11/2016 09:17:59	0120226****	Bournemouth	200	James Hunter	00:00:01

手順	説明の要点	操作
3	[今日 (Today)] を選択してその日のうちに生成されたアクティビティを表示したり、ドリルダウンして個別のコール数を表示したりします。その日の自分のコールを見ます。	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードの上部にある [日付 (Dates)] ドロップダウンメニューを [今日 (Today)] に変更します。  <ul style="list-style-type: none"> Adam McKenzie のグリッド エントリをクリックします。これで、以前に行ったテスト コールの詳細を確認できます。 

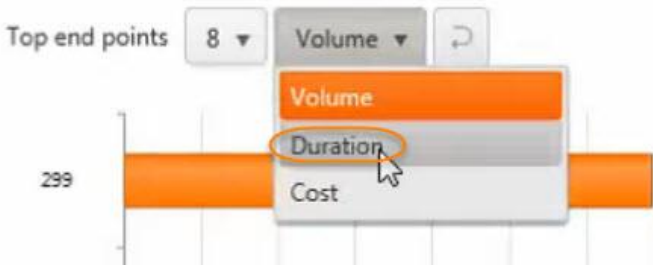

シナリオ 3: エンドポイント コストのモニタリング

[上位 x 個のエンドポイント (Top x endpoints)] ダッシュボードを使用して、UC プラットフォームで最も頻度の高いユーザまたはコストの高いユーザを判断します。

デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	こんにちは。私は Adam McKenzie です。私は ABC Company の UC エンジニアです。通信ネットワークの稼働を維持する業務を担当しています。私は、最もコストの高いコールが発生しているエンドポイントを特定する必要があります。	<p>Workstation 1 で (Adam McKenzie として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面右上の [モジュール (Modules)] ドロップダウン メニューをクリックして、[ダッシュボード (Dashboards)] タイルを選択します。  <ul style="list-style-type: none"> [使用状況 (Usage)] をクリックします。 [上位 x 個のエンドポイント (Top x endpoints)] をクリックします。 ダッシュボードに今月のデータが表示されます。

手順	説明の要点	操作
2	<p>個人別の最もコストの高いエンドポイントについて、イベントの詳細が表示されます。これは、会社のリソースを不適切に使用した、電話料金の不正行為が発生しているかどうかを疑う際に役立ちます。</p> <p>すべては、標準的なビジネス プラクティスを使用した回線のように見えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 最もコストの高いエンドポイントの横棒にマウスを合わせます。右側に詳細が表示されます。  <ul style="list-style-type: none"> 横棒をクリックし、そのエンドポイントの説明を表示する [通話量グラフ (Volume Chart)] の上部にある [詳細 (Details)] タブをクリックします。 

手順	説明の要点	操作
3	<p>また、コールの合計時間が一番長いエンドポイントを特定することもできます。これもまた、上位のエンドポイントデータを分析するうえで役立ちます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> [上位エンドポイント(Top End points)] ドロップダウン メニューの [通話量 (Volume)] を [期間 (Duration)] に変更します。  <ul style="list-style-type: none"> グラフの棒にマウスを合わせると詳細が表示されます。 

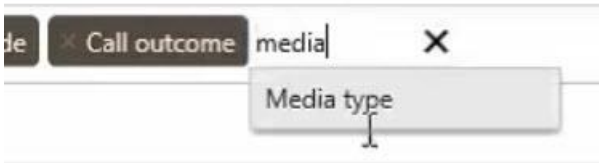
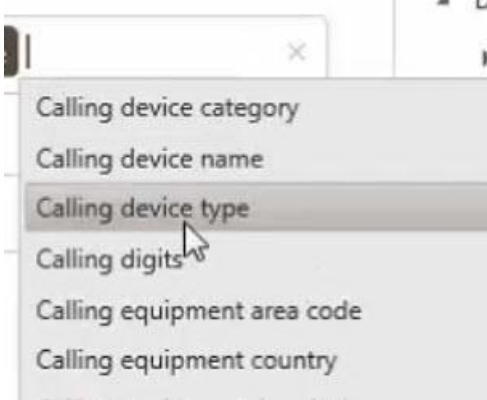

手順	説明の要点	操作
4	<p>[今日 (Today)] を選択してその日のうちに生成されたアクティビティを表示したり、ドリルダウンして個々のエンドポイント タイプ別にコールを表示したりします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダッシュボードの上部にある [日付 (Dates)] ドロップダウンメニューを [今日 (Today)] に変更します。 上部の任意の行にマウスを合わせて、各データタイプの詳細を確認します。  <p>The screenshot displays the 'Top X End Points' section of the Cisco dCloud dashboard. It features a line chart with a y-axis ranging from 0 to 45 and an x-axis showing time from 08:00 to 17:00. Four data series are plotted: Outgoing (yellow), Incoming (red), Internal (blue), and Tandem (green). A tooltip is visible for 'Friday, December 02, 2016', showing the following counts: Outgoing: 22, Incoming: 24, Internal: 8, and Tandem: 0. The dashboard also includes filters for '1 CDR sources selected' and '1 director selected'.</p>

シナリオ 4: Cisco UCM コール分析

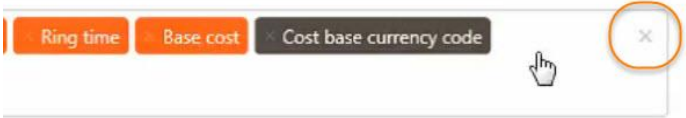

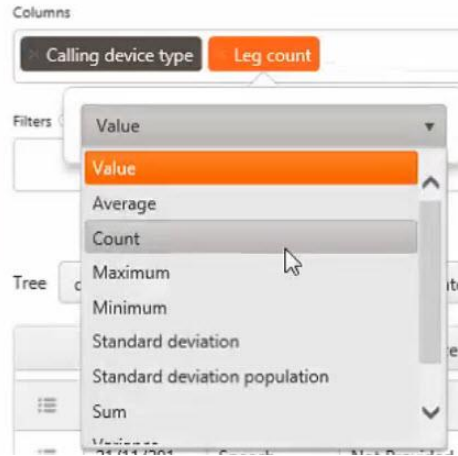
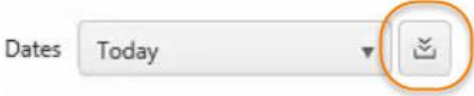
Cisco UCM のすべてのアクティビティの詳細レコードを表示して、問題の追跡、例外的な使用の特定、またはイベントの証拠の提示を行います。

デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは。私は Adam McKenzie です。私は ABC Company の UC エンジニアです。</p> <p>UC クラスタ全体の使用率をモニタリングしています。Cisco UCM によって生成されるすべてのレコードをクエリできるようにするため、[分析 (Analytics)] ダッシュボードに移動します。</p>	<p>Workstation 1 で (Adam McKenzie として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面右上の [モジュール (Modules)] ドロップダウン メニューをクリックして、[分析 (Analytics)] タイルをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> [検索 (Search)] をクリックします。 [レッグ (Legs)] をクリックします。 分析グリッドによって、今日収集されたすべてのレコードが返されます。 データグリッドの [ベース コスト (Base Cost)] 列ヘッダーを 2 回クリックして、ベース コストを降順に並べ替えます。 [通話時間 (Talk Time)] でもこれを繰り返します。

手順	説明の要点	操作
2	私は出力の列にメディア タイプおよび発信デバイス タイプを含める必要があります。そこで、分析データグリッドにこれらの列を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> 一番上の [列 (Columns)] セクションに「メディア タイプ (Media Type)」と入力し、ポップアップ表示されるテキストをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> 「発信デバイス タイプ (Calling Device Type)」と入力し、ポップアップ表示されるテキストをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> [レグ開始 (Leg Start)] 列の横にある [メディア タイプ (Media Type)] および [発信デバイス タイプ (Calling Device Type)] をドラッグします。 [日付 (Dates)] セレクタの右にある [取得 (Retrieve)] ボタンを押します。 

手順	説明の要点	操作
3	<p>ときに、膨大なデータを抱えてしまうことがあります。フィルタを適用してデータ グリッドを分析し、より詳しく調べるために特定のタイプのデータを分離する必要があります。</p> <p>メディア タイプ フィルタを作成し、音声とビデオのデータ ポイントのみを除外するように選択します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> [フィルタ(Filters)] セクションに「メディア タイプ(Media Type)」と入力し、ポップアップ表示されるテキストをクリックしてこのフィルタを作成します。  <ul style="list-style-type: none"> [メディア タイプ(Media Type)] のテキストをクリックすると、ポップアップ ウィンドウに利用可能なオプションが表示されます。[すべてを未選択 (Select None)] を選択し、[音声 (Speech)] をクリックして値を [はい (Yes)] に設定します。ビデオでもこれを繰り返します。 [OK] をクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> [日付(Dates)] セレクタの右にある [取得 (Retrieve)] ボタンをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> これで、ビデオのない音声のログのみが表示されるようになります。


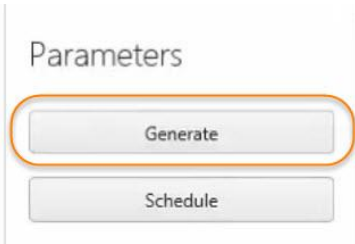

手順	説明の要点	操作
4	<p>私はカスタム テーブルを作成する必要があります。新規で作成し、必要な列のみを追加します。</p> <p>分析データを集計して、Cisco UCM システムのユーザーごとに使用されているデバイス タイプを特定することができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> [列 (Columns)] セクションで、X アイコンをクリックしてすべての列を削除します。X が表示されない場合は、周辺の領域をクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> [列 (Columns)] セクションに「発信デバイス タイプ (Calling Device Type)」と入力し、ポップアップ表示されるテキストをクリックします。レッグ数および通話時間についてもこれを繰り返します。  <ul style="list-style-type: none"> [レッグ数 (Leg Count)] ドロップダウン メニューをクリックして [数 (Count)] を選択します。  <ul style="list-style-type: none"> [通話時間 (Talk Time)] ドロップダウン メニューをクリックして [合計 (Sum)] を選択します。 [日付 (Dates)] セレクタの右にある [取得 (Retrieve)] ボタンをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> これにより、各発信デバイス タイプ、レッグ数、通話時間の合計が 1 つのデータ行に表示されます。これで、定義済みの値を使用してカスタム テーブルが作成されました。

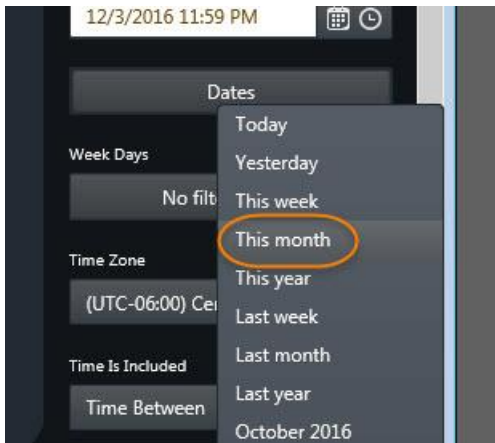
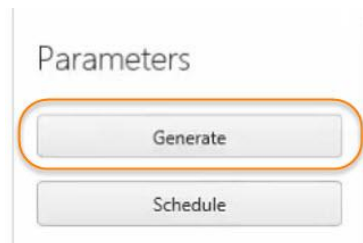
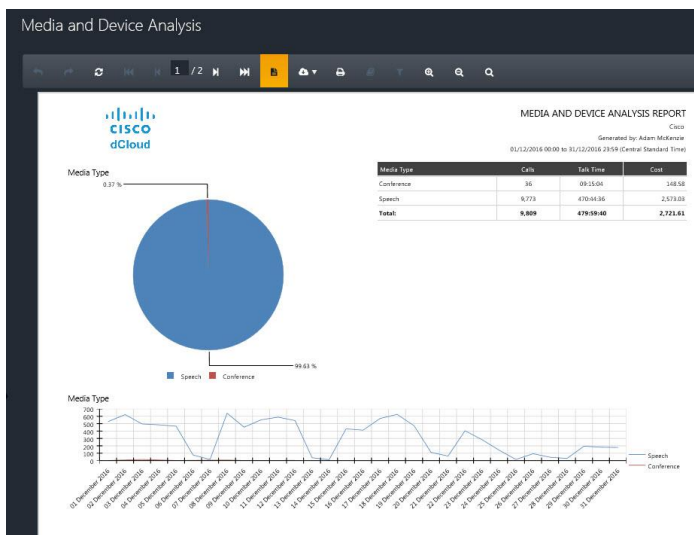
手順	説明の要点	操作
5	次に、必要に応じていつでも実行できるよう、この表をウィジェットとして保存できます。一度設定すれば何度でも使用できます。	<ul style="list-style-type: none"> 左側の [マイ ウィジェット (My widgets)] をクリックし、保存済みカスタム テーブルをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> 画面右上のアイコンにマウスを合わせて、[マイ ウィジェット (My widgets)] 画面に使用可能な機能を表示できます。 

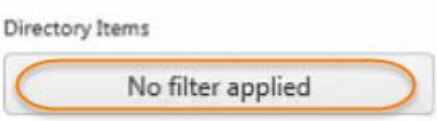
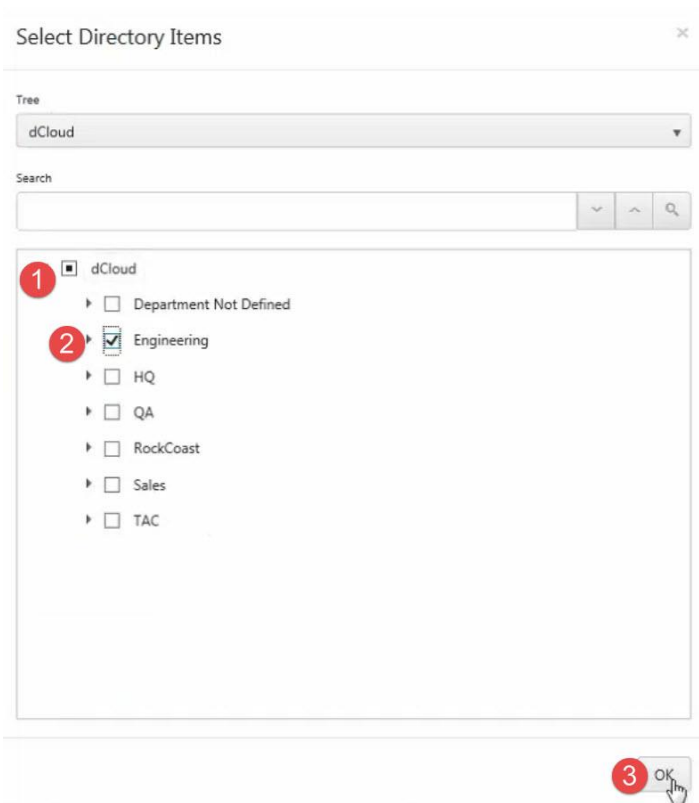
シナリオ 5: 部門ごとのレポート

レポートを使用して、組織内の情報を配布します。

デモンストレーションの手順

手順	説明の要点	操作
1	<p>こんにちは。私は Adam McKenzie です。私は ABC Company の UC エンジニアです。</p> <p>レポートを生成してデバイス タイプの使用状況やメディア タイプを表示し、長期的な Cisco UC プラットフォームの導入を把握する必要があります。</p>	<p>Workstation 1 で (Adam McKenzie として) :</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面右上の [モジュール (Modules)] ドロップダウン メニューをクリックして、[レポート (Reports)] タイルをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> [ユーザの導入 (User Adoption)] > [メディアとデバイスの分析 (Media and Device Analysis)] をクリックします。 右上の [生成 (Generate)] をクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> 矢印ボタンをクリックしてページをスクロールします。 

手順	説明の要点	操作																
2	長期の日付範囲でレポートを生成し、デバイス タイプとメディア タイプの使用状況の変化を表示します。	<ul style="list-style-type: none">[日付 (Dates)] ボタンをクリックし、[今月 (This Month)] を選択します。  <ul style="list-style-type: none">右上の [生成 (Generate)] をクリックします。   <table><tr><th>Media Type</th><th>Calls</th><th>Talk Time</th><th>Cost</th></tr><tr><td>Conference</td><td>36</td><td>09:15:05</td><td>348.50</td></tr><tr><td>Speech</td><td>8,773</td><td>479:59:40</td><td>2,573.03</td></tr><tr><td>Total</td><td>8,809</td><td>479:59:40</td><td>2,723.63</td></tr></table>	Media Type	Calls	Talk Time	Cost	Conference	36	09:15:05	348.50	Speech	8,773	479:59:40	2,573.03	Total	8,809	479:59:40	2,723.63
Media Type	Calls	Talk Time	Cost															
Conference	36	09:15:05	348.50															
Speech	8,773	479:59:40	2,573.03															
Total	8,809	479:59:40	2,723.63															

手順	説明の要点	操作
3	特定の部門をすばやく確認するため、私はエンジニアリング部門のレポートを生成して長期的な導入を追跡します。	<ul style="list-style-type: none"> スクロール ダウンして、右側のパラメータ ペインにある [ディレクトリ品目 (Directory Items)] の下の [フィルタの適用なし (No filter applied)] ボタンをクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> ツリーを展開し、[エンジニアリング (Engineering)] の横にあるボックスをクリックします。 [OK] をクリックします。  <ul style="list-style-type: none"> 右上の [生成 (Generate)] をクリックします。

©2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R)

この資料の記載内容は2017年9月現在のものです。

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先